

平成29年度第4回稲毛区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

【会議概要】

- 1 日 時 平成30年3月12日（月） 午後2時00分～3時30分
- 2 場 所 稲毛保健福祉センター 3階 大会議室
- 3 出席者 委 員 27名中 22名出席
事務局 稲毛保健福祉センター 所長、高齢障害支援課2名
保健福祉局地域福祉課 2名
社会福祉協議会稲毛区事務所 所長以下3名

【次 第】

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）及び稲毛区支え合いのまち推進計画（第4期稲毛区地域福祉計画）の策定について
 - (2) 稲毛区支え合いのまち推進計画（第3期稲毛区地域福祉計画）の取り組みのまとめについて
 - (3) 支え合いのまち稲毛（稲毛区推進協だより）の発行について
 - (4) 委員の選任について
 - (5) 地域福祉活動の紹介について
 - ア 301（作草部・天台）地区支え合いの会
 - イ 認知症徘徊声かけ訓練
 - (6)
- 3 閉会

【議事要旨】

議題1 支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）及び稲毛区支え合いのまち推進計画（第4期稲毛区地域福祉計画）の策定について

事務局から、前回会議（昨年9月）終了後、市民説明会の開催（同10月～11月）、千葉市社会福祉審議会地域福祉専門分科会の開催（同11月）、パブリックコメント手続（同12月～本年1月）により、市民の意見を聴取し、「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）（案）」及び「稲毛区支え合いのまち推進計画（第4期稲毛区地域福祉計画）（案）」を策定したことを、資料により説明した。

質問・意見はなく、「稲毛区支え合いのまち推進計画（第4期稲毛区地域福祉計画）（案）」は案どおり承認された。

議題2 稲毛区支え合いのまち推進計画（第3期稲毛区地域福祉計画）の取り組みのまとめについて

事務局から、稲毛区支え合いのまち推進計画（第3期稲毛区地域福祉計画）の平成27年度から29年度までの取り組みのまとめについて、資料により説明した。質問・意見はなかった。

議題3 支え合いのまち稲毛（稲毛区推進協だより）の発行について

事務局から、広報委員会において、第24号の記事として、「第4期稲毛区地域福祉計画の策定」、「地域支え合い活動（「黒砂安心サポートの会」の活動）」、「はじめての地域見守り・助け合い活動スタートガイド」について掲載することを決定し、資料のとおり平成30年3月に発行する予定であることを説明した。また、第25号で掲載してほしい記事があれば、事務局に連絡するよう依頼した。

質問、意見なく、推進協だよりの発行について、案のとおり承認された。

議題4 委員の選任について

事務局から、この3月31日をもって委員の任期が満了となるため、委員の皆様に対し会議での審議等、区計画の推進にご協力いただいたことを感謝した。また、新委員の任期が始まる平成30年度から第4期計画も開始するため、計画期間（平成30～32年）に任期を合わせるにより、途中で委員が変わることなくより深い審議が可能となるため、任期を2年から3年に変更する旨の協議会設置要綱の改正を提案した。

質問・意見はなく、提案のとおり承認された。

議題5 地域福祉活動の紹介について

(1) 301（作草部・天台）地区支え合いの会

事務局及び瓜生副委員長から、社会福祉協議会301（作草部・天台）地区部会が、来月4月から開始する「支え合いの会」について、資料により説明した。

※「ずっと暮らしたいと思える作草部・天台地区」を目指して、地域住民同士の助け合いにより、地区内の高齢者・障害者等の支援が必要な者のごみ出し、電球交換、買い物支援等を手伝う。

<主な意見・質疑応答>

委員	恥ずかしい話であるが、私の地区には町内会長が1年交替であるため、民生委員の顔も知らない町内会長が多い。支え合い活動には、町内会長と民生委員のコミュニケーションが非常に大切である。
委員	支え合いの会の活動中（例えば、ごみをごみステーションに持っていくとき）に交通事故に遭った場合の事故の補償はどうなるのか。各戸にごみステーションを設置することが私の理想であるが。
事務局	301地区支え合いの会では活動が無償で行っているため、ボランティア活動補償制度の対象となる。
委員	地域福祉計画の推進には、この会の活動のように、リーダーがリーダーシップを発揮して、活動を具体的に始めていくことが大事だと思う。

委員	自治会がないマンションなので、大地震が起きたときに、横のつながりがなく、不安であるというマンションの住民がいる。行政は、マンションにおいては、自治会の組織化だけでなく、自主防災会の組織化も強力に進めてもらいたい。
委員	避難所運営委員会の委員は、自治会や自主防災会等の役員でなくてはならないという規定はないため、興味のある人にやっていただければよい。自治会、又は自主防災会、マンション管理組合でもよいが、避難所運営委員会にそのマンションから委員を出してもらわないと、災害発生時に、避難所に救援物資が届く予定日などの情報が在宅の住民に届かない。また、委員は、毎年交替するのではなく、継続してやってほしいと思う。
委員	「支え合いのまち稲毛第24号」に掲載されている「黒砂安心サポートの会」について、当初は、高木の枝払いなど素人では難しい依頼があり、苦勞した。今ではごみ出しが主であり、購入した携帯電話を持って受付をする役割の連絡員の当番を決めて、ノートに日誌をつけて記録しながら、引き継いでいる。 今、地域で最も困っていることは、京成みどり台駅の近くにあったスーパーマーケットが撤退してしまい、日常の買い物をする場所がなくなったことである。別のスーパーマーケットのバスに近くまで来てもらう呼びかけなどの運動をしている。
事務局	千葉市社会福祉協議会においても、高齢者の買い物支援などに取り組んでいる。それには福祉施設の協力が必要であり、より一層、福祉施設と連携・協力して、支え合う地域づくりができるよう取り組んでいきたいと考えている。

(2) 認知症徘徊声かけ訓練

事務局から、あんしんケアセンター小仲台・社会福祉協議会稲毛区事務所・町内自治会の共催により、昨年11月に小仲台地区、轟町地区で行われた「認知症SOS声かけ訓練」について、資料により説明した。質問・意見はなかった。

※道に迷い、家に帰れなくなった認知症の方を発見したときに、認知症の方にやさしく声をかけて、安全な場所へ連れていくための訓練。

議題6 その他について

(1) 災害への備えについて

千葉市手をつなぐ育成会から、千葉市手をつなぐ育成会の「あんしん委員会」において、地域で安心して生活していくためにさまざまな情報を集めて、知的障害児の親としてできる対策を話し合っているとのことで、資料により説明した。

(2) 次回開催日について

事務局から、平成30年度第1回推進協議会について、来年6月に開催する予定であることを説明した。